

■研究・実践の課題（テーマ）

幼稚園・保育園等における感染症対策と衛生管理（手洗い等）に関する研究

■主任研究者 岸本 満

■共同研究者 福岡 恩

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

【研究・実践の目的】

共同研究者は、正しい手洗い習慣がついていない 3 歳児が手洗いに積極的に取り組めるよう、まずは流水で手洗いする習慣をつけるために楽しく手洗いができる手技について検討してきた。その結果、共同研究者の考案した流水洗いの手技（「しゅりけん洗い※」）が石けん洗いと同等の除菌効果を得られた。

本研究では考案した手技「しゅりけん洗い」で手洗い歌の楽曲「てあらいにんじゃ」を絵本・あそび作家の浦中こういち氏に依頼し、CD を製作、楽曲制作者による手洗い指導を行った。また、その効果を ATP 測定により評価した。

【方法】

被検者は K 保育園幼児クラス 93 名で、2020 年 11 月 2 日に普段通りの手洗いについて ATP 測定、12 月 8 日にしゅりけん洗いの楽曲について園児と保育者へ説明、12 月 15 日にしゅりけん洗いの ATP 測定を実施した。

ATP 測定は、自由手洗い（水洗いか石けん洗いを自由に選択）、しゅりけん洗いそれぞれの手洗い前後の RLU 値の比較をし、有意差検定（ウィルコクソンの符号付順位検定）をした。また、RLU 値を、食品現場における手指の清浄度管理基準値である合格 1500 以下、要注意 1500 から 3000、不合格 3000 以上により手洗い前の RLU 値が不合格だった者の手洗い後の RLU 値の変化をクロス集計し、「しゅりけん洗い」の評価をした。

【結果・考察】

手洗い前後の RLU 値の比較をした結果、水洗い、石けん洗い、しゅりけん洗いのいずれも RLU 値は減少し、有意差があった。手洗い前の RLU 値が不合格だった者の手洗い後の RLU 値の変化をクロス集計し、「しゅりけん洗い」の評価をした結果、石けん洗いとしゅりけん洗いは手洗い後合格となった割合が増加した。石けん洗いとしゅりけん洗いの割合について、カイ二乗検定をしたところ、有意差はなく、二つの手洗いの効果は同等といえる。

※『大きいしゅりけん』の掛け声をかけながら流水中で手のひらどうしをこすり合わせ、（およそ 4 往復）『シュッ!』の掛け声と同時にしゅりけん を飛ばすような動作をする。次に『小さいしゅりけん』の掛け声をかけながら指どうしを同様にこすり合わせ、『シュッ!』の掛け声と同時にしゅりけん を飛ばすような動作をする。次に手の甲を反対の手のひらでこすり合わせる。①左の手のひら、②左の指、③右の手のひら、④右の指、⑤左の手の甲、⑥左の甲側の指、⑦右の手の甲、⑧右の甲側の指の順で行う。①～⑧は

およそ 20 秒間で声をかけながら楽しくできる。